

一三〇〇年のその先へ

美濃陶磁歴史館 ☎ 1245

糸目土瓶・松皮土瓶

江戸時代、土瓶はお茶を飲む習慣の広がりとともに普及し、風俗図にも茶や薬を煎じたり、湯を沸かす道具として描かれています。糸目土瓶・松皮土瓶は、市内では主に駄知町の窯で生産され、文化元年（1804年）ごろ、塚本源右衛門が作ったとされます。これらは「能登様土瓶」とも呼ばれ、天保元年（1830年）、岩村藩主松平能登守が陶器方長谷川半七に命じて、岩村物産として各地に販売させたといわれています。



松皮土瓶

胴部上半部およびふたにロクロの回転を利用して細い沈線状の文様を施した土瓶を「糸目」、削りの鉋（かんな）がロクロの回転で波を打ったようになる飛鉋（とびかんな）と呼ばれる手法で松の木の外皮に似た文様を施したものを「松皮」と呼んでいます。いずれも胴部下半を除き錆釉（さびゆう）を施しています。これらの土瓶は、駄知町の西山、北山、平の窯で生産されており、身の底部や蓋の裏に銘が押印されていることが多く、西山窯では、「東ミノタチ 源右工門焼」、北山窯では、「タチ」などの銘が採集されています。

現在、美濃陶磁歴史館で開催中の企画展「江戸の暮らしと美濃焼（2月21日まで）」でも松皮土瓶を展示しています。ぜひご覧ください。



プライベートガイド

文化プラザ ☎ 5711



文化プラザ

有吉玉青講演会『作品を「楽しむ」』 ～フェルメールが教えてくれたこと

17世紀オランダの画家ヨハネス・フェルメールに造詣が深い作家の有吉玉青さんをお迎えして講演会を開催します。

参加費
無料

日時 2月13日(土) 午後1時30分開場 午後2時開演
場所 ルナホール

申込方法 住所、氏名(ふりがな)、電話番号、参加人数を記入の上、次のいずれかの方法で**1月31日(日・必着)まで**に市図書館「有吉玉青講演会係」へ申し込みください(申込多数時は抽選)。

- ▷電話 … 55-1253
- ▷FAX … 55-7782
- ▷Eメール … tosoyo@city.toki.lg.jp
- ▷郵送 … 〒509-5122

土岐市土岐津町土岐口2154-9

市図書館 (☎)1253



有吉玉青さん(ありよし・たまお)

作家、大阪芸術大学教授。母・佐和子との日々を描いた『身がわり』により坪田譲治文学賞受賞。

そのほか著書に『キャベツの新生活』『美しき一日の終わり』『恋するフェルメール 37作品への旅』など多数。